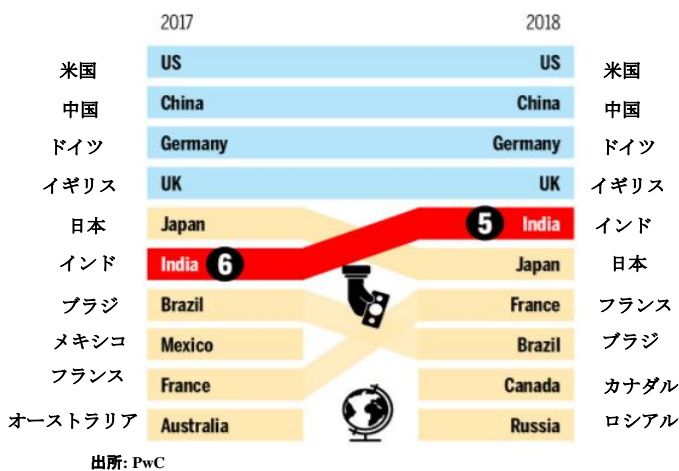


ハイライト

インドは、プライスウォーターハウスクーパースによるグローバル CEO の調査で、日本を5番目に魅力的な投資先として追い抜いた。政府のインフラ、製造、スキルの改革努力がインドを投資先として魅力的にしたため、インドの対外直接投資は今年度上半期に17%増の250億ドルを超えた。

(出典：PwC, Bloomberg)

トップ10 投資先 (ランク)



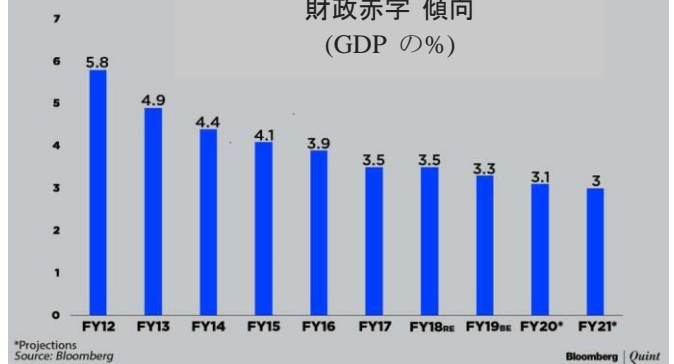
IMF はインドの GDP が 2019 年度に 7% となると予測していて、急成長を遂げている新興経済国としてのタイトルを挽回する。インドは、外部借入を削減し、工業生産を増やし、農村経済を改善するための取り組みを成長ドライバーとして挙げた。通貨廃止と GST 改革の実施による混乱のために、これは 2017 年に中国に後退した。

(出典：IMF, Bloomberg)

インドの製造業活動は、日経インド製造業購買担当者指数が成長の勢いを維持したことから、1月に52.4%となった。生産活動の増加は、商品化やサービスの税制改革の実施や通貨廃止の同時のショックから景気が回復し続けているため、新規受注と販売数量の増加に起因している。雇用創出は、成長するビジネスに対応して5年以上前から最速に上昇すると報告されている。

出典：IHS Markit, Bloomberg)

財政赤字 傾向 (GDP の%)



インドの財務省の Arun Jaitley 大臣は、投資活動と固定投資の成長の勢いが加速することから、2018 年度の 9.5% から 19.5% の名目上の成長率を予測している。

政府は、2018 年度の財政赤字を前回の目標の 3.2% から 3.5% にすると予測しているにもかかわらず、財政赤字を GDP の 3% に引き下げることにコミットしている。

(出典：Bloombergquint)

インドの第 4 四半期の金宝飾品需要は、12 月に終了した四半期の 189.6 トンに対し、年間ベースで 4% 増加して 2017 年ぶりの高水準を記録しました。毎年の金需要は 2017 年の 726.9 トンで 9% 上昇したにもかかわらず、5 年間の平均で 810 トンに満たない。金に対する投資需要は、投資家が株式に焦点を当てるにつれて低下している。

(出典：World Gold Council, Bloomberg)

インド準備銀行は、債券市場に利益をもたらす中立的な立場を維持しているため、6 パーセントの買い戻し率を維持している。しかし、家族のインフレと拡大予算の増加は、他の銀行の投票が 25 ベーシス・ポイント増加した一方で、6 人の委員のうちの 1 人が金利引き下げを行ったため、RBI がより堅調な統合にシフトしたことを示している。RBI は約 4% のインフレを維持することにコミットしている。インフレは、2019 年の後半に RBI が 4.5~4.6% に下がると予想されるため、インフレは 4 月~2018 年 9 月に 5.1% から 5.6% の間になると予想される。

(出典：RBI, Bloomberg)

重要な情報

この報告書は、株式単元のオファーを構成するものではなく、勧告または意見書または広告でもありません。これは何らかの証券の利率や価格の起こり得る将来の動きに関する何らかの予測や表示の性質を持つものではありません。上記の報告書の内容は、特定の目的、経済状態、そしてこの報告書を受け取る特定の人の特定のニーズを顧みず、情報提供のみを目的としています。何らかの証券や有価証券への投資と本文書に言及されている投資戦略の妥当性に関しては、助言を求めるべきであります。

当社がお客様の投資問題を解決するうえでお役に立てる方法について詳しくお知りになりたい場合には UTI 資担当者にお問い合わせ頂くか、www.utifunds.com をご覧ください。